

医学教育分野別評価 東京医科歯科大学医学部医学科 年次報告書 令和元年度

評価受審年度 2017（平成29）年

1. 使命と教育効果

改善した項目

1. 使命と教育成果	1.2 使命の策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>評価基準では、使命の策定に、教職員代表、公共ならびに地域医療の代表者、教育および医療関連行政組織、専門職組織、医学学術団体および卒後教育関係者からの意見を求めることが求められている。どのような人から意見を求めるかも含め、幅広い教育関係者から使命についての意見を求めることが望まれる。</p>	
改善状況	
<p>卒業試験受験資格、臨床実習合否判定、さらには臨床実習の今後の教育目標等を審議するため、弁護士、患者団体の代表者及び学術団体の理事を構成員とする「臨床実習科目評価判定委員会」を設置した。</p> <p>平成30（2018）年9月に第1回委員会を開催し、臨床実習の進級要件、留年した場合の再履修方法、無断遅刻の取扱いなどについて、外部委員の意見も踏まえ新たに策定した。</p>	
今後の計画	
<p>臨床実習期間中に精神的不調をきたし欠席しがちな学生の支援体制について、本学医学部附属病院精神科と医学科教育委員会で連携をとり、情報を共有できるような態勢を整えるなど、本委員会で検討する予定である。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料1-1 2018年度第1回臨床実習科目評価判定委員会議事要旨（案）	

1. 使命と教育成果	1.3 大学の自律性および学部自由度
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<p>教養教育において医学部が望む教育の実現に向けて教養教育担当部署・教員とより密接なコミュニケーションを取ることが望まれる。</p>	
改善状況	
<p>各学部学科教員・教養部教員を構成員とする統合教育機構学士課程カリキュラム改善チームにおいて、2年次の学部専門科目履修開始後に教養科目を履修することの必要性など、カリキュラム改革の方向性について検討を開始した。</p>	
今後の計画	
<p>令和2（2021）年度開始予定の新カリキュラムにおいては、教養部科目の在り方も含め大幅に変更を図る予定である。</p>	

改善状況を示す根拠資料
資料1-2 2019年度第2回学士課程カリキュラム改善チーム会議議事メモ

2. 教育プログラム

改善した項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
臨床実習Ⅲ（クリニカル・クラークシップ）では、4週間単位で内科、外科、ER、小児科、周産・女性診療科が必修となっている。クリニカル・クラークシップでの精神医学及び総合診療／家庭医療科の実習期間の検討を行うべきである。	
改善状況	
本学医学部附属病院では、平成30（2018）年7月に総合診療科を新設した。臨床実習において総合診療科をローテーションに加え、5年次に4週間の実習、6年次に2週間の実習を選択できるようにした。	
今後の計画	
令和2（2021）年度開始予定の新カリキュラムにおいては、臨床実習の構成を大幅に変更予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-1 2019年度臨床実習パンフレット（抜粋）	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
チーム医療入門が6年次に2日間で行われているが、患者安全や患者中心の医療の観点から、実際の臨床の場での多職種連携教育を拡充していくべきである。	
改善状況	
平成29（2017）年度から、医歯学融合教育の一環として、医学科6年生全員・歯学科6年生の科目選択者を対象に医学部附属病院緩和ケア病棟、歯学部附属病院歯科総合診療部における連携実習をトライアルで開始、互いの臨床実習現場において医科・歯科医療の現場を体験し、将来必要となる医歯連携・多職種連携に対する知識を深めた。平成30（2018）年度から正式に開始した。	
今後の計画	
平成30（2018）年度は医学科全員必修、歯学科は選択必修として、両学科学生が双方の附属病院で学習する交換実習を継続した。歯科、医科の互いの診療内容を理解し、臨床現場での専門性の違いを実体験することで、他分野における自分の知識の無さを実感し、同級生に対するリスペクトにつながるとともに、適切なコンサルトおよびチーム医療を行う重要性を実感する学生が多くみられ、一定の効果をあげていると考えている。今後は、本実習を継続するとともに、事前に互い	

<p>の知識でかけている部分を補う事前資料や教材の配布、担当症例をもとに歯科、医科双方の学生および教員での議論を通してさらに深い学びに繋がりたいと考えている。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料2-2 国内学会報告（第51回日本医学教育学会大会口演24-4中川美奈 24-5則武加奈子） 国際学会報告（AMEE 2019 ePoster 5FF5(888)）</p>	
<p>2. 教育プログラム</p>	<p>2.6 カリキュラム構造、構成と教育期間</p>
<p>基本的水準 判定：適合</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<p>行動科学の教育内容を明確にすべきである。</p>	
<p>改善状況</p>	
<p>社会医学系授業科目責任者を交えて統合教育機構行動科学開発チームで検討を行い、令和2（2020）年度から、必修科目「行動科学」を新設し、医学科第3学年4月に12コマ開講することになった。</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>新設科目「行動科学」の授業評価結果を踏まえ、令和3（2021）年度開始予定の新カリキュラムに反映させる予定である。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料2-3 令和2（2020）年度「行動科学」カリキュラム（案）</p>	

3. 学生評価

改善した項目

<p>3. 学生評価</p>	<p>3.1 評価方法</p>
<p>基本的水準 判定：適合</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<p>臨床実習のローテーションごとの OSCE、mini-CEX の信頼性と妥当性の評価を示すべきである。医歯学融合教育評価・改善検討ワーキング・グループのほかにも、学内試験の評価に、より多くの外部評価者を参加させるべきである。</p>	
<p>改善状況</p>	
<p>卒業試験受験資格、臨床実習合否判定、さらには臨床実習の今後の教育目標等を審議するため、弁護士、患者団体の代表者及び学術団体の理事を構成員とする「臨床実習科目評価判定委員会」を設置した。 平成30（2018）年9月に第1回委員会を開催し、臨床実習の進級要件、留年した場合の再履修方法、無断遅刻の取扱いなどについて、外部委員の意見も踏まえ新たに策定した。</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>臨床実習期間中に精神的不調をきたし欠席しがちな学生の支援体制について、本学医学部附属病院精神科と医学科教育委員会で連携をとり、情報を共有できる</p>	

ような態勢を整えるなど、本委員会で検討する予定である。
改善状況を示す根拠資料
資料3-1 2018年度第1回臨床実習科目評価判定委員会議事要旨（案）

5. 教員

改善した項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
モニタリングの信頼性を高めるために学生による全ての授業・コース評価および卒業時のアンケート調査の実施と回答率を更に向上させるべきである。	
改善状況	
回答率を向上させるため、平成 31（2019）年度から、各授業科目の全日程終了後、規定の期間内でのコース評価への回答を求め、回答した学生は迅速に電子掲示板上で定期試験の結果を参照できることとした。 この取組により、これまで 30%程度であった回答率が、ほぼ 100%にまで向上した。	
今後の計画	
方式を変更したことによる回答内容の質的变化については、統合教育機構 IR チームにて分析予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料5-1 医学科成績の開示について	

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
女性教員を増やすことが望まれる。	
改善状況	
平成 31（2019）年度の女性教員数は平成 30（2018）年度と比較し横ばいで推移しているが、女性教員の働きやすい環境の整備のため、平成 31（2019）年 4 月から、学内託児施設（わくわく保育園）は文京区の認可を受けた事業所内保育施設となり、教職員から要望が多かった 0 歳児の定員が増え、保育料金は認可保育園の保育料と同額となるなど、利用しやすくなった。	
今後の計画	
更に女性教員の働きやすい環境をつくるよう、全学を挙げての取り組みをさらに充実していくことにしている。	
改善状況を示す根拠資料	
資料5-2 女性教員数調べ 資料5-3 わくわく保育園の事業所内保育施設化について	

6. 教育資源

改善した項目

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>附属病院での実習において不足する総合診療、common disease の診療、地域医療に関しての関連施設での実習・教育が、附属病院での実習に比して希薄になっていることが否めないため、その充実化が求められる。</p>	
改善状況	
<p>本学医学部附属病院では、平成 30 (2018) 年 7 月に総合診療科を新設した。臨床実習においても総合診療科をローテーションに加え、5 年次に 4 週間の実習、6 年次に 2 週間の実習を選択できるようにした。総合診療科ローテーション期間中には、学生の希望により、地域医療に関しての関連施設での学外実習を行っている。</p>	
今後の計画	
<p>令和 2 (2021) 年度開始予定の新カリキュラムにおいては、臨床実習の構成を大幅に変更予定である。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料6-1 2019年度臨床実習パンフレット (抜粋)	

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<p>自己点検評価書に記載されているように、「診療録システムについては運用上の問題がすべて解決することが困難であり、改善に向けた努力」が望まれる。</p>	
改善状況	
<p>患者個人情報適切に管理するため、学生が USB メモリを含め電子媒体を使って診療情報端末へデータの出し入れを行うことを禁止した。この措置を受け、学生が電子カルテ情報に基づく症例提示・サマリ・総括発表資料を作成するための代替手段として、ファイル転送システム (FileZen) を導入した。</p> <p>同システムは、附属病院外から病院内の診療情報端末へ学生が作成したファイルなどを転送できるが、逆に病院内から院外にデータを転送することはできない一方向性のシステムである。</p>	
今後の計画	
<p>医学部附属病院内にある診療情報端末の台数に限りがあり、他の医療職員が使用している間、学生が端末を利用できないなどの問題が生じていることから、学生には入院病棟だけではなく外来の診療情報端末も利用できる旨、周知した。今後、診療情報端末の利用が少ない時間帯などを調査し、効率的な運用を図っていく予定である。</p>	

改善状況を示す根拠資料
資料6-2 ファイル転送システムの導入について

7. プログラム評価

改善した項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
学生からのフィードバックを受けて教育の継続的改善に役立てるべきである。	
改善状況	
平成 31 (2019) 年度ハウスプログラムについて、教員・学生からのフィードバックをもとに改善するため、令和元 (2019) 年 8 月 1 日 (木) に「ハウスプログラム運営委員会」を開催し、関係教員間で協議した。	
今後の計画	
平成 31 (2019) 年度ハウスプログラムについて、教育効果、教員の負担等を考慮して、「アカデミックアドバイジング」の回数を減らし、5 年次 1 回、6 年次 1 回とする。また 6 年次の実施時期について、進路に関するアドバイスを行うため、来年度からは 10 月の卒業試験実施前ではなく、進級後間もない 4～6 月に実施する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料7-1 2019年度第1回ハウスプログラム運営委員会議事要旨 (案)	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績・成績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
卒業生の業績の分析を行うべきである。	
改善状況	
卒業生の業績の分析を行うため、令和元 (2019) 年 5 月 17 日 (金) に統合教育機構教学 IR チーム及び学生・保健管理機構学生支援事務室が打合せを行った。 「今年度中に、本学医科同窓会に、全ての同窓会会員を対象としたアンケートを同窓会報発送時に同封していただくよう依頼する」こと、「上記アンケートから卒業生の現在の勤務先を把握したうえで、勤務先にアンケートを送付する」ことが決定された。	
今後の計画	
勤務先に送付するアンケートの内容・形態 (紙または web) について、引き続き統合教育機構教学 IR チーム、学生支援事務室で検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料7-2 「卒業生・修了生」「当該卒業生・修了生の就職先」に実施するアンケートに関する打合せ要旨 (案)	

8. 統括および管理運営

改善項目

8. 統括および管理運営	8.4 管理職と運営
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>大学に評価情報室が設置されており、中期計画に対する自己点検を行っているが、これらと連携するとデータも一元化され、内部質保証システムが完備し、PDF/A サイクルでの検証が容易となるので、今後一層の連携が望まれる。</p>	
改善状況	
<p>統合教育機構教学 IR チームにおいて、教学データを効率良く利用・分析するために、Excel マクロ・Access・R を連携させた独自のシステムの開発を行った。</p> <p>また、入学前の属性と入学後の GPA に関するデータを統計学的に解析し、その結果の報告会を学内で複数回行った。</p>	
今後の計画	
<p>教学 IR データの利便性を上げるためにシステムの改良を継続するとともに、学生支援やカリキュラム改革等に寄与できるよう様々な教学データを用いた分析を行っていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料8-1（部外秘）	Excel macro-Access-Rの連携によるデータ集約管理・集計・分析システム～EmAR System～
資料8-2（部外秘）	Excelマクロ-Access-Rの連携による効率的なデータ分析システムの構築